岐阜市の概要

まちを楽しむ

岐阜市は岐阜県の県庁所在地であり、市内中心部に清流・長良川が流れ、緑豊かな金華山がそびえる、自然豊かなまちです。1,300年以上の歴史を誇る「ぎふ長良川の鵜飼」や国史跡「岐阜城跡」など、歴史のまちとしても知られています。
斎藤道三・織田信長が登場した戦国時代に、岐阜は天下の要所として全国に名が知られるようになりました。江戸時代には、岐阜町は尾張徳川領に、加納町は加納藩の城下町そして中山道の宿場町として、発展の道を歩んできました。
明治22年7月1日に岐阜市制を施行して以後、近隣町村との合併を続ける一方、戦争や地震、台風による災害などの困難を克服しながら、産業・観光都市として成長。平成8年4月に中核市となり、平成18年1月に羽島郡柳津町と合併、令和元年7月1日には市制130周年を迎えました。

■岐阜駅北口駅前広場／岐阜シティ・タワー43／岐阜スカイウイング37／岐阜イーストライジング24

●岐阜駅北口駅前広場

平成21年9月に完成。岐阜の自然や歴史、伝統文化をモチーフにしたデザインで、県都の玄関にふさわしい景観。緑豊かな広場は「杜（もり）の駅」をテーマにしたほか、歩行者デッキ「杜の架け橋」で駅とまちをつなぎ、バスやタクシーの乗降場を整備。黄金の織田信長公像がそびえる「信長ゆめ広場」でのイベントがにぎわいを創出しています。

●岐阜シティ・タワー43

駅前広場の西側にそびえ、地上163m、住居を伴う複合タワーでは中部圏で一番の高さ。最上階43階のスカイラウンジからは岐阜市の絶景や美しい夜景が楽しめます。

●岐阜スカイウイング37

岐阜シティ･タワー43の北側に位置します。地上37階建て、高さ136mの東棟をはじめ、西棟、駐車場棟の3棟で構成され、住宅・商業・ホテルなどが入居。人が住み、働き、憩う駅周辺の魅力ある拠点になるとともに、岐阜シティ･タワー43とツインタワーを形成し、本市のシンボルとなっています。

●岐阜イーストライジング24

JR岐阜駅の東側に、平成31年1月に完成。地上24階建て、高さ95m、福祉施設を主体とし、住宅・商業施設などが入居。多世代が集い新たなにぎわいを創出しています。

■川原町界隈（かわらまちかいわい）

▲アクセス＝岐阜バス岐阜公園･長良橋方面行き「長良橋」下車

戦争や震災をくぐり抜け、江戸時代から明治時代の歴史的なまちなみ、格子造りの町家や商家、蔵などが残る「川原町界隈」。川原町とは、長良川左岸に位置する湊町、玉井町、元浜町などの総称で、戦国時代には長良川沿いに川湊が設けられ、美濃和紙や木材などを扱う商業の拠点として繁栄した地です。

■長良川温泉

長良川と金華山の周辺に広がる温泉街。赤褐色のにごり湯が特徴です。清らかな川の流れを眺めながら温泉に身をゆだね、鮎料理や薬膳料理に舌鼓を打ち、ぜいたくなひとときをご堪能ください。

■岐阜市の統計情報

- ●位　置　東経136°45′　北緯35°25′　海抜14.3m
- ●面　積　203.60㎢
- ●世帯数　185,871世帯
- ●人　口　男性：191,839人　女性：209,548人
- ●総人口　401,387人　（令和5年5月1日現在）

■市章（明治42年8月27日制定）

岐阜市は往古「井口（いのくち）」と呼ばれ、織田信長により「岐阜」と名づけられました。この由緒に基づき、井口の「井」を市章に定めました。

■市の木・市の花（昭和47年10月22日制定）

市の木：つぶらじい

市の花：サルビア

■金華山／岐阜公園

市の中心部に位置する金華山は、標高329m。山頂には岐阜城がそびえ立ち、まさに岐阜のシンボルと言えます。春は「つぶらじい」が山を黄金色に染めるほか、豊かな森林が残り、700種類を超える植物やさまざまな動物が生息する自然の宝庫です。山頂へはぎふ金華山ロープウェーのほか、登山道が整備され、リス村もあるなど、自然を気軽に楽しめます。

金華山のふもとに広がる岐阜公園は、市民の憩いの場であり、現在「歴史公園」として再整備を進めています。織田信長公居館跡や岐阜市歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館などの施設、三重塔などの文化財、戦国時代にタイムスリップしたかのような遊具広場、自然豊かな空間を散策できる御手洗池などがあります。

▲アクセス＝岐阜バス岐阜公園・長良橋方面行き「岐阜公園 歴史博物館前」下車　◎41ページも併せてご覧ください。

■岐阜城

鎌倉幕府の執事であった二階堂行政が築いたと伝えられ、道三や信長の居城として知られています。昭和18（1943）年の初代復興天守焼失後、昭和31（1956）年に現在の天守が再建されました。

伝統の技、日本の宝に魅せられる

■ぎふ長良川の鵜飼

岐阜の夏の風物詩「ぎふ長良川の鵜飼」は毎年5月11日から10月15日まで、鵜飼休み（中秋の名月ごろ）と増水時を除く毎夜行われます。鵜飼は1,300年以上の伝統を誇り、織田信長をはじめ、時の権力者の保護を受けてきました。また、松尾芭蕉やチャールズ・チャップリンら多くの文化人にも愛されてきました。漆黒の闇の中、6人の宮内庁式部職鵜匠が、風折烏帽子（かざおりえぼし）などの装束に身を包み、篝火（かがりび）を焚（た）いた鵜舟に乗り、「ほうほう」と声をかけながら、熟練した手縄さばきで鵜を巧みに操り、鮎を捕らえます。6隻の鵜舟が一列に並び鮎を追い囲む姿は、観覧する人を魅了し、幽玄の世界へと誘（いざな）います。

●鵜飼時間

19時45分ごろ（時季やイベントにより変動あり）

※夏休みの土曜など繁忙期には、通常の鵜飼の後に２回目の鵜飼（納涼鵜飼）を実施する場合があります。実施日・料金は鵜飼観覧船事務所に確認をお願いします。

●乗合船

当日、事務所で乗船券をお買い求めの上、ご乗船ください。

出船時間	料金（税込）		
		大人	小人
18時15分	全日	3,500円	1,800円
18時45分、19時15分	平日	3,200円	
	土日祝日	3,500円	

※小人は小学生以下（3歳未満は無料）。食事・飲み物はお持ち込みください。19時15分(出船時間)は飲食不可。鵜匠による鵜飼説明を「鵜飼観覧船のりば」で17時45分ごろから行います。

●貸切船

乗船定員数（令和5年度）	出船時間	料金（税込）※一部減免後	飲食
35人乗り	17時30分　～19時15分のご希望の時間に出船します	112,000円	×
40人乗り		119,000円	○
30人乗り		89,300円	
20人乗り		59,500円	
10人乗り		35,000円	

※乗船日に事務所から確認の電話をします。当日、事務所で乗船料をお支払いください。

●「おまかせパック」「おまかせパックデラックス」

乗船料と弁当・お茶をセットにし、簡単な手続きで鵜飼観覧をお楽しみいただけます。リーズナブルにご利用いただける「おまかせパック」、ワンランク上のお弁当を味わいながらデラックス専用船で楽しむ「おまかせパックデラックス」の2つのプランから、目的やご予算に合わせてお申し込みください。

■ 料金

プラン名	大人（中学生以上）	小人（3歳以上小学生以下）
おまかせパック	5,500円	3,500円
おまかせパックデラックス	8,000円	5,000円

※いずれも乗船料＋弁当＋お茶１本（500ml）。

■ 開催日

鵜飼開催期間中の毎週火～金曜日（ただし祝日または特定日は除く）

■ 申込

- 「おまかせパック」は乗船日前日の午前中までに、電話でお申し込みください。
- 「おまかせパックデラックス」は乗船日の一週間前までに、電話でお申し込みください。最少催行人員は6人です。
- 乗船日の17時30分から、鵜飼観覧船待合所で受け付けを行いますので料金をお支払いください。18時45分に出船します。

◎その他にも、事務所前で受け取りができる弁当などがあります。詳細はホームページをご覧ください。

●高級鵜飼観覧船

3隻の高級鵜飼観覧船は、闇に溶け込む外観や、それぞれ異なるテーマカラーの内装と屋形で、特別な空間で鵜飼を観覧できます。また、テーブルの配置を変えることもでき、船の中で料理を楽しみたい、食後にゆったりと鵜飼を楽しみたいなど、ニーズに合わせてお楽しみいただけます。

■ 料金・申込など

3隻とも貸切専用で、乗船料は、10人乗り(白月）が89,400円、15人乗り（花篝、藍山）が134,100円です。予約方法など、詳細はホームページをご覧ください。

▶鵜飼観覧船の申込・問　鵜飼観覧船事務所（湊町1－2･☎262－0104･FAX264－2061）

ホームページはこちら▶